

科目名称：	ITパスポート特講	
担当者名：	矢澤 建明	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>現在、ビジネス分野において、基本的な情報技術の知識を持つ人の需要はますます高くなってきています。経済産業省が認定する「ITパスポート試験」に合格することは、その知識を持っているという証明になります。</p> <p>本授業は、「情報科学I・II」で学んだことを基に、業務システムと管理・企業とストラテジ分野を補足し、最終的にITパスポート試験に合格することを目的とします。したがって、本授業の受講条件は、開講期間内（春季集中授業中）に「ITパスポート試験」を受験することとします。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>本授業は、「情報科学I・II」で学んだことを基に、実際にITパスポート試験に合格するまでの知識と技能を修得します。</p> <p>到達目標としては、「ITパスポート試験に合格すること」になりますが、実際には、ITパスポート試験の合格レベル（分野の60%の知識・技能の修得）となります。</p> <p>資格取得が大きな目標なので、知識の伝達に陥りやすいですが、知識の定着のため、授業内では問題演習を中心に学生からの発案・議論を取り入れて実施していきます。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	60		20	20	100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
<p>特殊な事情により、対面授業ができない場合、「オンライン上で映像を視聴してもらい」、「テキストデータ・画像データを使って学生からの授業内課題・次回まで課題を提出する」、「学生同士がテキストベースで質問・議論しあう」という、教室外での授業実施を行うことがある。</p>

到達目標ルーブリック	良好	おおむね良好	努力を要する	難あり
テクノロジー系 (IT技術) 分野	ITパスポート試験テクノロジー分野の用語を理解し、他者に説明できる。	ITパスポート試験テクノロジー分野の用語を理解している。	ITパスポート試験テクノロジー分野の用語を記憶している。	ITパスポート試験テクノロジー分野の用語がわからない。
マネジメント系 (IT管理) 分野	ITパスポート試験マネジメント分野の用語を理解し、他者に説明できる。	ITパスポート試験マネジメント分野の用語を理解している。	ITパスポート試験マネジメント分野の用語を記憶している。	ITパスポート試験マネジメント分野の用語がわからない。
ストラテジ系 (経営全般) 分野	ITパスポート試験ストラテジ分野の用語を理解し、他者に説明できる。	ITパスポート試験ストラテジ分野の用語を理解している。	ITパスポート試験ストラテジ分野の用語を記憶している。	ITパスポート試験ストラテジ分野の用語がわからない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間 (分)
第1回 企業と法務	本シラバスを精読しておくこと。	20分
第2回 経営戦略	テキストで、「経営戦略」の予習をしておこなうこと。	30分
第3回 システム戦略	テキストで、「システム戦略」の予習をしておこなうこと。	30分
第4回 開発技術	テキストで、「開発技術」の予習をしておこなうこと。	30分
第5回 プロジェクトマネジメント	テキストで、「プロジェクトマネジメント」の予習をしておこなうこと。	30分
第6回 サービスマネジメント	テキストで、「サービスマネジメント」の予習をしておこなうこと。	30分
第7回 情報基礎理論演習 (授業内でディスカッションをしながら演習をすすめる)	テキストで、「2進数・ビットバイト・文字データ」の予習をしておこなうこと。	30分
第8回 コンピュータシステム (構成要素)	テキストで、「コンピュータ構成要素」の予習をしておこなうこと。	30分
第9回 コンピュータシステム (ハードウェア・ソフトウェア)	テキストで、「ハードウェア・ソフトウェア」の予習をしておこなうこと。	30分
第10回 ヒューマンインターフェース・マルチメディア	テキストで、「マルチメディア・インターフェース」の予習をしておこなうこと。	30分
第11回 データベース	テキストで、「データベース」の予習をしておこなうこと。	30分
第12回 ネットワーク	テキストで、「ネットワーク」の予習をしておこなうこと。	30分
第13回 セキュリティ	テキストで、「セキュリティ」の予習をしておこなうこと。	30分
第14回 ITパスポート模擬試験問題演習1 (授業内でディスカッションをしながら演習をすすめる)	第1回～13回の復習をしておこなうこと。	30分
第15回 ITパスポート模擬試験問題演習2 (授業内でディスカッションをしながら演習をすすめる)	第1回～13回の復習をしておこなうこと。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、予習をプリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
毎授業内で行う課題解法を20%で評価する。また、毎回の復習プリントの提出解答状況を20%で評価する。

課題に対するフィードバック

授業内の課題をルーブリックで評価し、返却する。

教科書・参考書

『キタミ式イラストIT塾 ITパスポート』、技術評論社。
コンピュータ・パソコンに関する本、ITパスポート試験に関する書籍はすべて参考となる。